

労使で県内就職を支援!

労使共通の様々な問題・課題に対する取り組みを行うため、3月4日に連合群馬と群馬県経営者協会の四役とで意見交換会を行いました。

はじめに、群馬県経営者協会の児玉会長から「『病気は気から、景気も気から』と言いますが、労使協調して盛り上げ、会社が良くなって、皆さんの給与も上がるようお互いに頑張りましょう」と挨拶がありました。

次に、連合群馬の北川会長より「群馬県全体の労働環境を改善するため、労使で知恵を出し合い、確実に成果に結びつくようにしていきたい」と挨拶がありました。

続いて、これまでの労使の取り組みについて確認すると共に、新規テーマについて意見交換を行い、女性が働く場所の提供が困難なことや、中小地場企業のPRの場が少ないこと、企業と学校間での人材育成のミスマッチなどの議論がされました。

今年は、群馬の経済を活性化させるため、県内で働く人材を増やすとの観点から、「県内で学ぶ学生の県内就職支援」と「女性の社会進出促進」をテーマとして、労使合同研究委員会の中で取り組むことになりました。



意見交換を行う連合群馬と群経協の四役

【労使でのこれまでの取り組み】

年月日	取り組み内容
2000年2月24日	群馬経営者協会・連合群馬 「労使共同声明」
2002年3月28日	群馬経営者協会・連合群馬 「雇用安定推進宣言」の締結 ⇒ 労使合同研究委員会の設置
2002年9月30日	第1回労使合同研究委員会を開催
2003年1月24日	「中高年齢者の雇用のミスマッチ解消」に向けた提言
2006年8月31日	「若年者に対する雇用・失業情勢の改善」に向けた提言
2011年1月18日	「若者の就労観・職業観醸成の取り組み」に向けた提言

長野県で除雪・集雪ボランティアを実施

労福協と連携した除雪・集雪ボランティアを、2月23日～24日に長野県下水内郡栄村で実施し、34名が参加しました。

数日前からの大雪に伴って、施設周辺の雪かきや、地元商工会からの依頼によるスキー場のコース整備、さらには、栄村で開かれるイベント「復興祈願灯明まつり」の準備として、かまくら作りを行いました。

参加者からは、「貴重な体験ができた」「大雪と寒さを体験し、栄村の大変さを知ることができた」などの感想があり、今も残る震災の傷跡と被災地の現状を知ることができ、ボランティアとして参加したことの意義を確認することができました。

栄村では、2011年3月12日に発生した長野県北部地震により、幸いなことに死者こそ出なかったものの、その被害は甚大なものでした。

現在は、仮設住宅から新しい住宅への転居は全て終了しましたが、崩落したままの橋が残っている地域もあり、震災の傷跡はまだ残っています。

連合群馬では、第13期の活動計画の中で被災地支援を重点項目に位置づけており、今後も取り組んでいきます。



雪が舞う中での作業を終えた参加者



周りの雪を集め、かまくらを作る

雪が舞う中での、スキー場のコース整備



ホームページへボランティア情報を掲載

連合群馬ホームページに、ボランティア情報を掲載しています。東日本大震災からの復興には長期的な支援活動が必要と捉え、被災地を中心としたボランティアセンターの情報を新たに追加しました。これにより、希望する地域・ボランティア内容を容易に確認することができ、より検索しやすくなりました。是非、多くの方のご支援をお願いします。

↓トップページからバナーをクリック!

